

広

二年 画数 5
 筆順 一、二、三、四、五
 オン コウ
 ひろいりがるりげるりまるりめる

成り立ち



じゆうに出入りできるようにつくられた家のかたちをあらわした「广」と、「肱をはる」といういみをあらわした「ム」とを組み合わせてつくった字です。

「じゆうに出入りできる」「ひろい」「家」といういみの字ですが、家にかんけいなく、「ひろい」といういみをあらわすのにつかいます。

「私」の「ム」は鼻の形を表したものが、「広」の「ム」は「肱」の形を表したもので、肱(音コウ)の本字である。「肱を横に張った形」を表しているの、「肱を張る」という意味から「ひろい」という意味をもつのである。」

使い方

▽広大な宇宙のことをかんがえると、人はなんてちつづけなんだろうと、おもいます。

▽広野をふきわたるかげが、はるのかおりをはこんできます。

▽「広いのはらよりも、せまいいえ」といって、我が家になまるところは、ありません。どんなに小さくても、おとうさん、おかあさんがいる、じぶんの家ほど、いいところが、この世にあるでしょうか。

▽広々とした公園で、子どもたちがあそんでいます。犬をつれて、さんぽしている人もいます。ほんとうに、このこうえんは広くて、きもちのいいところです。

熟語例

▽広大(広くて大きいこと。)

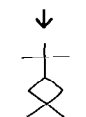
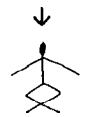
▽広野(広々とした野原。「ひろの」ともいいます。おなじ「こうや」でも「荒野」とかくと、「荒れた野原」といういみになります。)

▽広言(口はばつたい言葉。大口。人まえもかまわず、大きな口をきくこと。「そう広言するからには、じつさに実行してもらいたいものだ」など)

交

二年 画数 6
 筆順 一、二、三、四、五、六
 オン コウ
 かいりかわすまじざるまじる
 せざるまじりえるりわる

成り立ち



人がりよう足を「交え」たかたちをあらわした字で、「ものを交える」こと、「ものが交わる」こと、「ものが交じる」こと、「交ざる」こと、「ものをまぜる」ことをあらわした字です。

また、「人が行き交う」こと、「ものをとり交わす」ことなどのいみにもつかいます。

「交の使われている字には、「効」「校」「郊」「較」などがある。」

使い方

▽「交差点のしんごうを、よく見て、どろろをわたるんですよ」と、先生がおっしゃいました。

▽でこぼこした小みちをたどっていくと、やがて、ひろびろとしたどろろと交わっているところに出ました。ひろびろとして、きもちがいいので、こちらのどろろをあるくことにしました。

▽せいとたちは、先生を交えて、はなしあいをはじめました。

熟語例

▽交差(二つじようのものが交わること。)

▽交流(ちがったものが交わること。「文化交流をそくしんしよう」などといいます。)

▽交換(ものを、べつものものと、とりかえること。「こわれたとけいのぶひんを交換する」などといいます。)

▽交替(じゆんばんを、いれかえること。「交替で、すべりだいをつかきましょう」などといいます。)